

埼玉県熊谷市で開催した 森林・林業・環境機械展示実演会



保有台数が十年で2倍に増えた
高性能林業機械を中心に
最新技術を紹介

2013森林・林業・環境機械展示実演会が11月17日、18日の2日間、埼玉県熊谷市で開催し、過去最大規模の77社・団体が最新の林業技術を実演、紹介した。静岡県で開催時(2012年)のような林内での実演はなかったものの、木材自給率50%の達成に向け路網整備とセットで普及が進む高性能林業機械の実演に接するため、全国から林業関係者が来

場した。

森林・林業・環境機械展示実演会は秋季に開催する全国育樹祭(今回は第37回目)の記念行事として1981年(昭和56年)から毎年開催している専門見本市。春季の全国植樹祭で天皇が植えた樹木を秋季に皇太子が手入れする全国育樹祭に合わせ、開催都道府県(今回は埼玉県)と(一社)林業機械化協会が主催する。

森林・林業再生プラン(2009年12月)から政策は林業振興に拍車がかかっている(攻めの農林水産業が旗印)。現在、20%台後半の本材自給率を2020年度内に50%まで引き上げる(国産材供給量を現在の1,800万 m^3 から3,980万 m^3 に拡大の)目標のもと、路網整備とセットで普及が進む林業機械の導入が急速に進んでいる。プロセッサやフォワーダ

